

わかりやすい



尼崎市

障害者計画・障害福祉計画



この冊子は、障害のある人が自分らしく安心して地域で暮らしていくために“必要なこと”や“支援してほしいこと”について、尼崎市がその取組を進めていくため、『障害のある人の暮らしを支えること(尼崎市障害者計画(第4期):2021年度から6年間)』と『必要な福祉サービスのこと(尼崎市障害福祉計画(第6期):2021年度から3年間)』をまとめた計画です。

この計画ができるまで

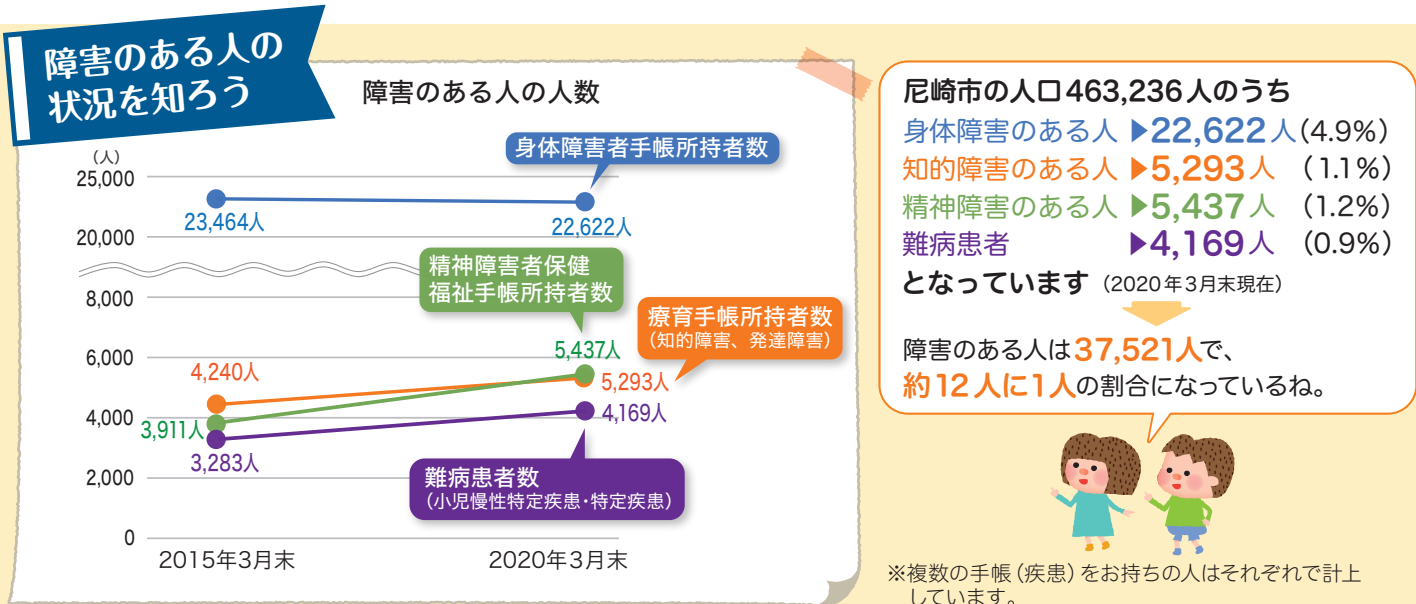
この計画をつくるにあたって、もっとも大切にしてきたことは、**障害のある人の声や考えをしっかりと聴くこと**です。

尼崎市では、障害のある人との話し合いやアンケートを行うことで、生活の状況やサービスの利用のこと、ご本人の障害やからだのこと、日々の困りごとや大切に考えていることなどについて、たくさんのご意見をお伺いしてきました。

また、その内容などについて、**障害のある人やそのご家族、地域で支援に携わる人などが参加する会議の場で話し合い、一緒に考えながら**つくってきました。



障害のある人やそのご家族、地域で支援に携わる人はもちろんのこと、このまちに住むすべての人にこの計画をご覧いただくことで、**障害のある人のことや、尼崎市がこれから取り組んでいくことについて、少しでも知ってもらえる機会**になればと考えています。



この計画がめざすこと

1 障害者計画でめざすこと

基本理念

重点課題

基本施策

施策の方向性

誰もがその人らしく、自立して安心して暮らすことができる共生社会の実現

必要な支援を受け、身近な地域で暮らすことができる環境づくり

生きがいを持って自分らしく暮らすことができる環境づくり

共に支えあい、安心して暮らすことができる環境づくり

1 健康に暮らす



- 医療、リハビリテーション
- 精神保健に関する施策
- 難病等に対する施策
- 障害の原因となる疾病の予防・支援等



P.3

2 自立して暮らす

- 障害福祉サービス等
- 相談支援体制

P.3

3 育つ・学ぶ



- 療育
- インクルーシブ教育システム推進のための特別支援教育
- こころの教育・支援

P.4

4 働く

- 雇用機会
- 多様な就労

P.4

5 住まう・出かける

- 生活環境
- 移動環境

P.5

6 地域でつながる

- 生涯学習活動(スポーツ・文化芸術・社会参加)

P.6

7 安全に暮らす

- 防災対策
- 防犯対策、消費者保護



P.6

8 お互いを認め合う

- 権利擁護
- 理解・啓発活動と差別の解消

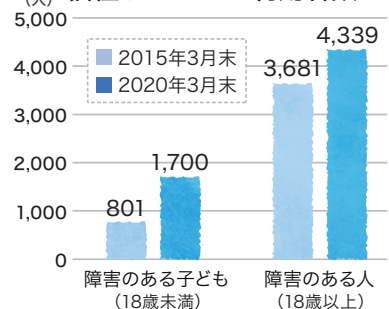
P.7

9 伝える・知る

- 情報の利活用のしやすさとコミュニケーション支援
- 行政サービス等における配慮

P.8

福祉サービスの利用者数

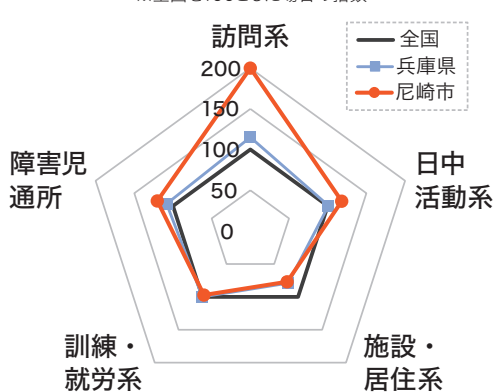


福祉サービスの利用は5年間で
18歳未満では約2.1倍
18歳以上では約1.2倍
に増えているね。



福祉サービスの利用状況

(人口千人あたりの利用者数)
※全国を100とした場合の指数



*2020年4月の利用状況

尼崎市では

- 自宅での生活を支えるサービス(訪問系)
- 日中に通う場での活動を支えるサービス(日中活動系)
- 子どもの育ちを支えるサービス(障害児通所)

が充実しているね。



基本施策1

健康に暮らす

保健 医療

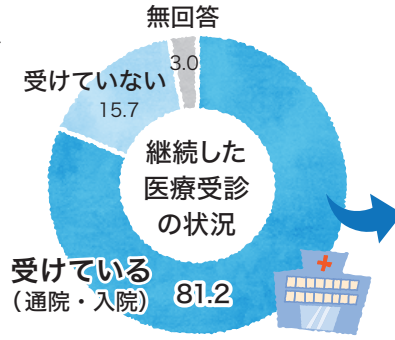


障害につながる病気などの早期発見や予防、いつでも地域で安心して医療が受けられる環境をつくることなどで、障害のある人のところからだの健康づくりを支えます。



アンケートの結果から

医療ニーズは8割以上と高く、そのうち、約5割の人が受診の際に困っているね。



受診の際に困ったことがある人は約5割

- いくつもの医療機関に通わなければならない
- 医療費の負担が大きい
- 専門的な医療機関が近くにない など

そのために
尼崎市が
取り組むこと

- ▶ 障害のある人の医療やリハビリの費用を助成します。また、その制度を周知します。
- ▶ 「尼崎総合医療センター (AGMC)」や「障害児者リハビリテーションセンター (あまリハ)」など兵庫県立の専門機関や地域の医療機関 (訪問看護ステーションなど)、精神障害や難病等の団体と連携して、医療や相談支援の体制を充実します。
- ▶ 各種健診などにより、発達の課題や障害の原因となる病気の早期の発見と支援につなげます。

この数値を
めざします

訪問看護療養費^(※)の助成件数

(※重度の障害のある人への在宅リハビリにかかる費用など)

2026年度には…
664件 → **2,160**件

基本施策2

自立して暮らす

福祉サービス 相談支援



地域で生活するのに必要なサービスや相談支援に取り組むことや、それら支援の質を向上させていくことなどで、障害のある人の自立した生活を支えます。

利用の多いサービスの種類

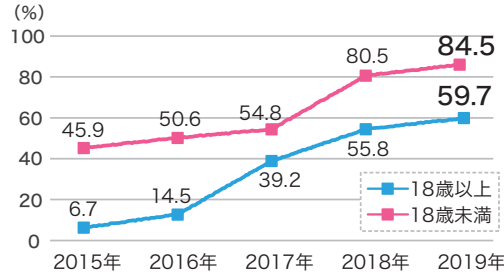
障害のある子ども (18歳未満)

- 放課後等デイサービス …… 58.0%
- 児童発達支援 …… 34.7%
- 相談支援 …… 16.0%

障害のある人 (18歳以上)

- 移動支援 …… 30.8%
- 居宅介護 (ホームヘルプ) …… 27.8%
- 生活介護 …… 21.0%
- 就労支援 …… 19.6%

サービスの利用計画の作成率



アンケートの結果から

福祉サービスを利用する一人ひとりにあわせた計画づくりを進めていく必要があるね。



そのために
尼崎市が
取り組むこと

- ▶ 障害のある人のからだの状態や生活の状況、支援のニーズなどをしっかりと聞き、市のガイドライン (支給決定基準) に基づいて、必要かつ適切なサービスを提供します。あわせて、サービスの質の向上に取り組みます。
- ▶ 市域の南北にある「基幹相談支援センター」やそれぞれの障害種別を担当する「委託相談支援事業所 (8か所)」などで、障害の特性などに配慮したきめ細やかな相談支援を行います。また、福祉サービスを利用するすべての人に、個別の利用計画を作成します。

この数値を
めざします

重点項目 サービスなどの利用計画の作成率^(※)

(※18歳未満と18歳以上をあわせた利用計画の作成率)

2026年度には…
70.8% → **100**%

あわせて、障害福祉計画の取組 (9・10ページを参照) をしっかりと進めていきます。

基本施策3

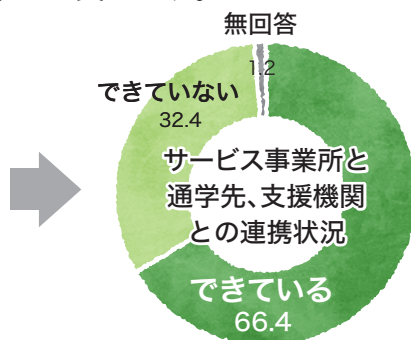
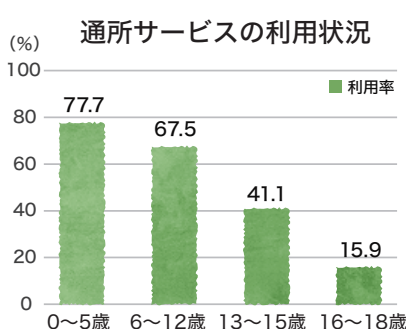
育つ・学ぶ

療育

教育



障害のある子どもへの適切な療育や個々の教育的ニーズに応える指導、必要な相談支援に取り組むことなどで、障害のある子どもの育ちや学びを支えます。



アンケートの結果から

0~12歳の通所サービスの利用が高いね。あと、3割以上の人が連携できていないって考えているね。



そのために
尼崎市が
取り組むこと

- ▶ 療育や訓練を行うサービスの充実や、児童発達支援センター「あこや学園」・「たじかの園」などで発達相談や療育指導などを行います。また、医療的ケアが必要な子どもの退院後の生活を支援します。
- ▶ 就学前から卒業後も切れ目なく一貫した支援が受けられるよう、学校や園、関係機関等との連携(縦と横の連携)を強めていきます。また、市の特別支援教育のセンター的機能を担う「あまよう特別支援学校」の支援機能と専門性の向上に取り組めます。

この数値を
めざします

サービス事業所と通学先、支援機関との
連携状況^(※)
(※連携できていると答えた障害のある子どもの保護者の割合)

2026年度には…
66.4% → **86.3%**

基本施策4

働く

雇用

就労

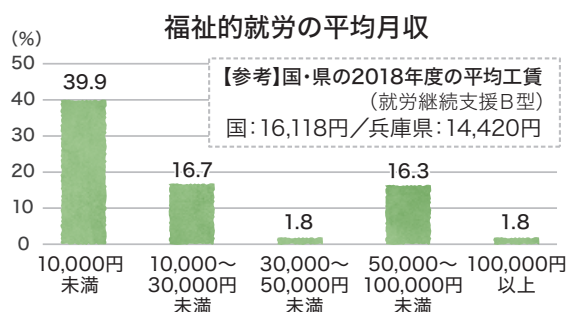


一人ひとりの適性に応じて能力を十分に発揮できるよう、さまざまな働く場や機会を確保することや、福祉的な就労での賃金向上を支援することなどで、障害のある人の就労を支えます。



アンケートの結果から

約4割の人が、月に10,000円未満の賃金と答えているね。



そのために
尼崎市が
取り組むこと

- ▶ 就労を支援するサービスの充実や、「障害者就労・生活支援センターみのり」で就労相談やその支援、雇用先の開拓・確保、就職後の就労定着に向けた支援などを行います。
- ▶ 市役所において、障害のある人の雇用や就労に向けた実習(チャレンジ事業)を行います。
- ▶ 障害者就労施設の製品などの紹介(ジョブリングamaの活用など)や販売会(尼うえるフェアなど)を行います。また、企業からの仕事を施設につなげます。

この数値を
めざします

2026年度には…
障害者就労施設の物品などの販売会の開催回数 16回 → **25回**

基本施策 5

住まう・出かける

生活環境

移動・交通



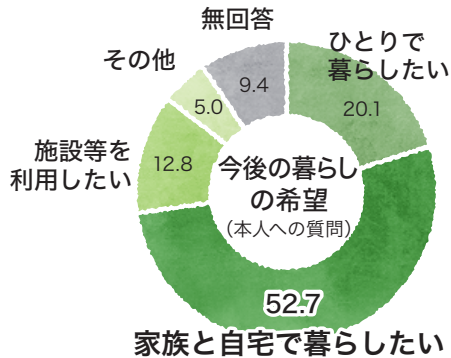
地域で暮らすために必要な住まいの確保や外出の支援に取り組むことや、さまざまな生活環境の整備を進めることなどで、障害のある人の地域での生活を支えます。

本人にとって適している住まいで暮らすために必要なこと

※介助者への質問

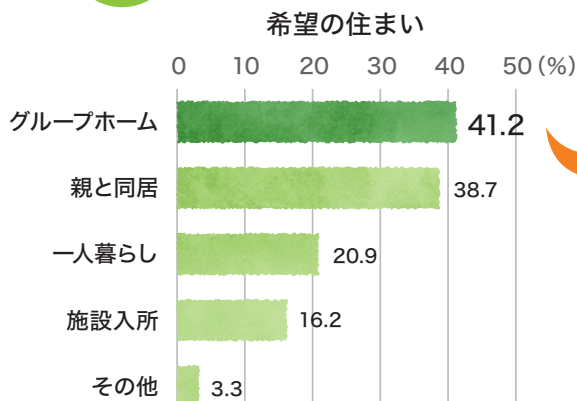


アンケートの結果から
在宅での生活を望む人が多いね。そのためにも日常生活を支える人が必要だね。

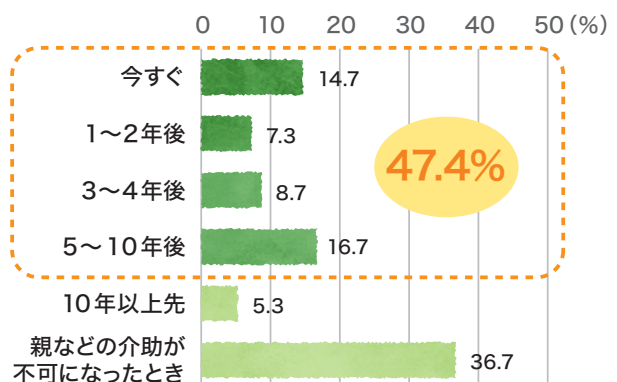


個別調査

地域での暮らしの実態を把握するため、市内の障害者団体にご協力いただき、個別調査で357人からの回答を得ました

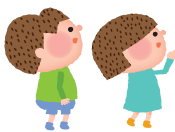


グループホームの利用希望時期



アンケートの結果から

4割以上の方がグループホームの利用を希望しているね。そのうち、5割近くの方が10年以内の利用を希望しているね。



そのために 尼崎市が 取り組むこと

- ▶ 障害のある人の住まいを確保するため、利用のニーズにあわせたグループホームの整備を進めます。また、「リレくらしサポートセンター」でグループホームなどの利用支援や介護者の急病などによる緊急時の受け入れを行うなどして、地域での生活を支えます。
- ▶ 公共施設と市営住宅の整備や公共交通の利用環境などの向上にあたっては、バリアフリー化とユニバーサルデザインの普及に取り組みます。
- ▶ 障害のある人の社会参加などを支援するため、バスの乗車証やタクシーなどの利用チケットの交付、ヘルパーによる外出支援サービスを提供します。

この数値をめざします

重点項目

市内のグループホームの定員数 453人 → **700**人

2026年度には…

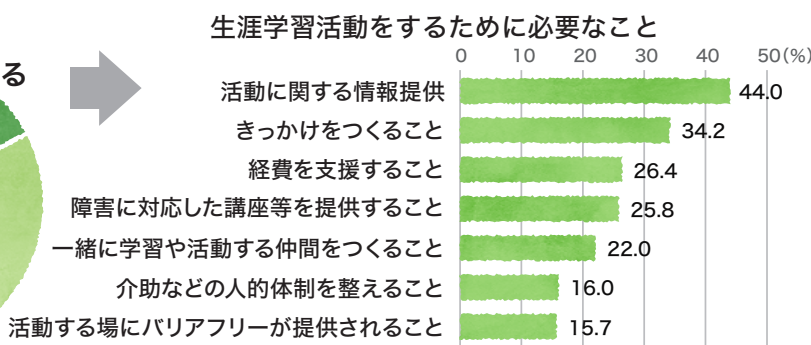
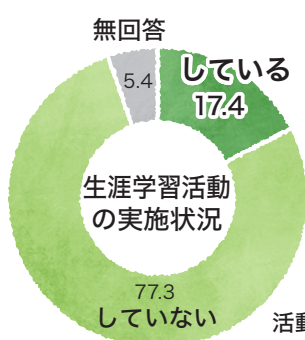
基本施策 6

地域でつながる

生涯学習活動



地域で行われるさまざまな催し（イベントや講座、交流会など）への参加や、自分たちで行う活動を支援することなどで、障害のある人の地域での交流や活動を支えます。



アンケートの結果から
地域で生涯学習活動をしている人は2割弱。参加するには、情報の発信ときっかけづくりを必要としているね。



そのために 尼崎市が 取り組むこと

- ▶ 「身体障害者福祉会館」の移転にあわせて、障害のある人が使いやすい施設に改修します。また、併設する「身体障害者福祉センター」と一緒に、より参加・活動しやすい事業（創作活動や教養講座、自主活動など）の運営などに取り組みます。
- ▶ 「生涯学習プラザ」やスポーツ施設など地域で行われるさまざまな活動の情報を、障害のある人に分かりやすく発信します。

この数値を めざします

2026年度には…
身体障害者福祉センターと
身体障害者福祉会館の利用者数 **28,742人** → **41,848人**

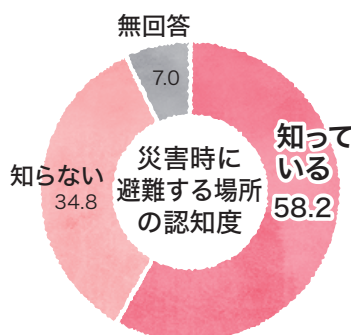
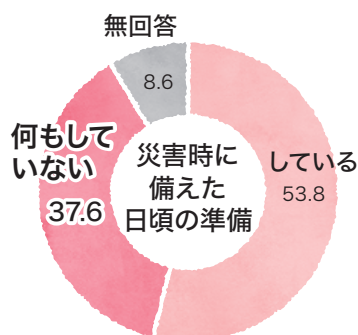
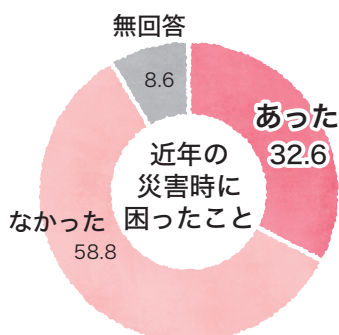
基本施策 7

安全に暮らす

安全・安心



災害への備えや災害が発生した時に、障害の特性に配慮した避難支援や情報伝達に取り組むことや、犯罪へ巻き込まれないよう啓発や相談を行うことなどにより障害のある人の安全・安心な暮らしを支えます。



アンケートの結果から
災害の時に困ったことがある人は3割以上もいるのに、日頃から準備をしていない人が約4割もいるね。避難場所を知っている人も6割弱となっているね。



そのために 尼崎市が 取り組むこと

- ▶ 障害のある人など災害時に支援が必要な人の名簿の活用や、特に配慮が必要な人への個別の避難行動計画の作成に向けた取組を進めます。また、避難所の充実や地域のさまざまな関係者との災害支援の連携を強めていきます。
- ▶ 障害のある人に配慮した消費生活に関する相談や地域の防犯対策などに取り組みます。

この数値を めざします

2026年度には…
災害時に避難する場所の認知度^(※) **58.2%** → **75.7%**
(※知っていると答えた障害のある人の割合)